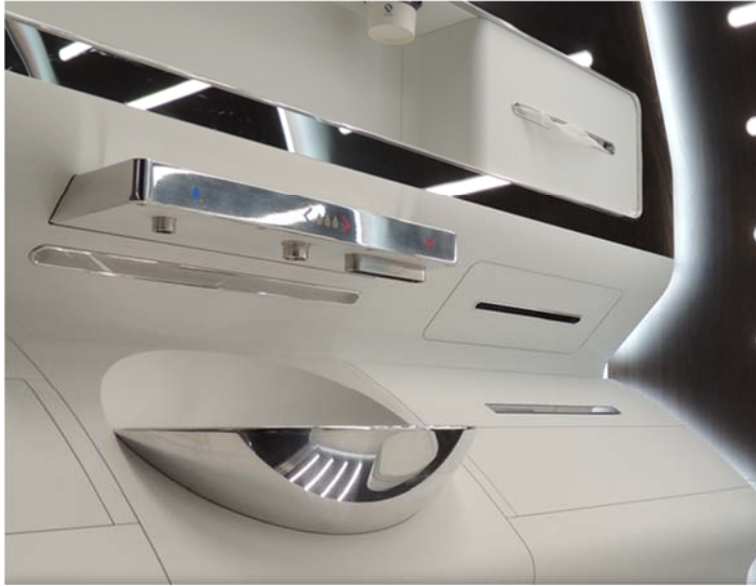


新しい分野へのあくなき挑戦

従来の概念にとらわれず、航空機の新たな客室を創造する、革新的なコンセプトや機能を提案していきます。



世界的な内装品シェア

ジャムコのベースは、技術。
これまで培ってきた高い技術力をベースに、航空業界で確かなシェアを獲得しています。



品質の高さと正確な納期

築き上げた高い品質と、積み重ねた安定提供の実績による数々の受賞実績を誇り、ジャムコは品質の担保と確実な納期で新たなステージへと進みます。

ALWAYS FLY TOGETHER



2018 CSR レポート

ジャムコ 2018CSR レポート

目次

1. **ジャムコ 2018CSR レポート**
目次
2. **編集方針**
報告対象
その他
3. **トップコミットメント**
4. **CSR の考え方**
CSR の推進
5. 2017 年度 CSR 活動のまとめ
9. **コーポレート・ガバナンス**
基本的な考え方
11. **企業活動における CSR**
コンプライアンス
13. 情報セキュリティへの取り組み
14. 災害発生時の事業継続計画（BCP）
リスクマネジメント
15. **特集：“CONTRAIL プロジェクト”**
地球温暖化防止活動環境大臣賞
「国際貢献部門」受賞！
CONTRAIL プロジェクトとは
大気中の効果温室ガスを立体的に観測
航空業界のプロフェッショナルとして
プロジェクトの継続を支える
観測結果は貴重なデータとして世界で活用
18. **お客さまとともに**
製品品質への取り組み
20. お客さま満足の向上
21. **社員とともに**
ジャムコの社員構成
人材育成への取り組み
22. 人権の尊重
23. ダイバーシティの推進
27. 労働安全衛生
28. **お取引先とともに**
健全な取引関係の構築
お取引先の皆さまと一体となった
CSR 推進に向けて
紛争鉱物への対応
グリーン調達への推進
29. CSR 調達方針
30. **株主・投資家とともに**
IR 情報の開示
株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション
株主還元に対する考え方
31. **地域社会とともに**
ジャムコの社会貢献活動
富山大学で「大気観測装置と
大型機内装品の紹介」
早稲田大学の「最新航空機産業概論」
講座で、講義を行いました
32. **地球環境のために**
環境への取り組み
活動の歩み
環境基本理念/環境行動指針
ジャムコの事業活動と環境との関わり
環境保全活動の推進体制
主な取り組み
2017（平成 29）年度の活動実績

編集方針

この報告書は、ジャムコグループ*の CSR（企業の社会的責任）に対する考え方や、課題への取り組みなどを紹介し、お客さまや、株主・投資家の皆さま、お取引先、従業員など、各ステークホルダーとのコミュニケーションをはかって、CSR への取り組みのさらなる向上を目指すことを目的としております。

*ジャムコグループ：国内関連会社及び海外関連会社

報告対象

対象組織

株式会社ジャムコを中心として国内関連会社、並びに海外関連会社について報告します。

対象期間

原則 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日としておりますが、一部それ以外の期間の情報も含まれます。

発行時期

2018 年 7 月

その他

参考としたガイドライン

ISO26000 社会的責任に関する手引

ISO14000 環境マネジメントシステム

お問い合わせ先

株式会社ジャムコ 人事総務部 CSR 推進課

〒190-0011

東京都立川市高松町 1-100

042 503 9900

トップコミットメント

ステークホルダーとの 関係を大切に 持続可能な企業をめざして



技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現に向けて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

ジャムコが経営理念として掲げるこの言葉は、まさに CSR の精神そのものです。

夢の実現にむけて挑戦しつづけます。

創業以来、ジャムコは航空業界を基軸に事業を展開してきました。これは、わたしたちの夢が、革新しつづける航空技術の発展によって実現するものと考えからに他なりません。夢を追い求めてきたわたしたちの業容も徐々に拡大し、活動の舞台もさらに大きく広がりはじめていますが、航空業界において、夢の実現に向けて挑戦しつづけます。

お客様の喜びと社員の幸せを求めています。

ジャムコでは、お客さまにご満足いただける製品とサービスを提供することによって、社員自身が仕事に対する喜びを感じ、一企業人として、ひとりの人間として成長してもらいたいと考えています。必要な教育訓練を行い、仕事のチャンスを与え、そして不文律であるジャムコイズムを伝承する、これらによって会社が成長すると同時に社員も成長する、そしてチームワークと達成感の中で社員が働ける環境ができるのだと思います。ジャムコは、「誠実で、人を大事にする会社」として在りつづけたいと思います。

自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

ジャムコは地球環境問題に積極的に取り組んでいます。省エネルギー対策、グリーン調達、廃棄物の削減と再資源化、また、使用する材料等の化学物質成分の調査を行い、有害物質を含むものについては代替品への転換を推進しています。これからも、地球環境問題への取り組みの重要性が高まるなか、さらなる環境負荷の低減に努めていきます

代表取締役社長

大喜多治年

CSR の考え方

CSRの推進

CSR 基本方針

ジャムコグループは、経営理念に基づいて次の方針を掲げ、CSR活動を推進します。

- 土魂の気概をもって、「誇り高く、誠実な会社」としてコンプライアンスを順守します。
- お客さまの期待に応える製品とサービスを提供すると共に、社員の成長と幸せを追求していきます。
- 社会や環境との共生を図り、豊かな社会づくりに貢献していきます。

人権方針

ジャムコグループは、経営理念の実現と持続的成長のために、人権を尊重する責任を果たします。

1. 国際人権基準（注）に基づき、人権を尊重する取り組みを推進し、持続可能な社会づくりに貢献します。
2. 国際人権基準に基づき、事業活動を行う国及び地域の法令を順守します。
3. 人権への負の影響を発生させる行為はしません。
4. 人権への負の影響を発生させた、又は関与した場合には、速やかにその救済の手続きを取ります。
5. 人権への負の影響を発見した場合の通報先として、社内又は社外のホットライン窓口を運用します。
6. 人権への負の影響を発生させるリスクの回避及び低減に取り組みます。
7. 人権について、全役職員に対する啓発活動を推進します。
8. ビジネスパートナー等に対し、人権を尊重し、負の影響を発生させないように求めます。
9. 事業活動に関連する人権問題について、ステークホルダーと適切に対話し、情報開示を行っていきます。

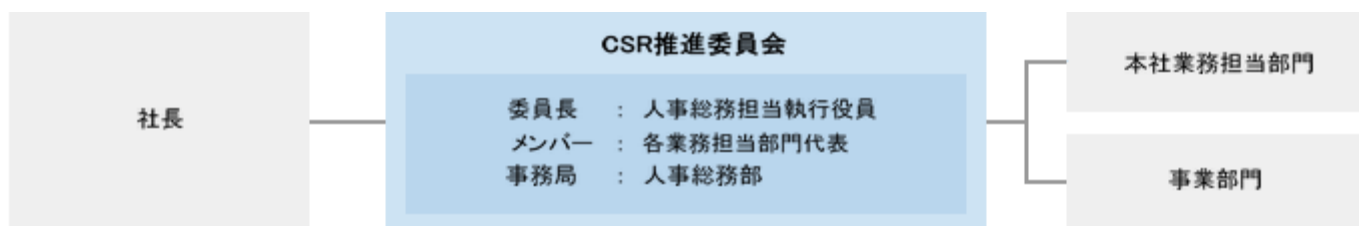
（注）：「国際人権基準」とは、次の考え方などに代表される「ビジネスと人権に関する国際人権基準」を指す。

- ・「世界人権宣言と国際人権規約」（国連）
- ・「労働における基本的原則及び権利に関する ILO 宣言」（ILO/国際労働機関）
- ・「ビジネスと人権に関する指導原則」（国連）

CSR 推進体制

CSR 推進に対する社会からの要請・期待の高まりに応えるため、ジャムコでは 2017 年 4 月に CSR 委員会を設置し、CSR を体系的に推進していく体制を整えました。

CSR 委員会は組織全体を横断的に統轄し、全社の CSR 活動を主導する役割を担います。委員会は、人事総務担当執行役員を委員長とし、各部門の委員で構成されます。委員会は定期的開催し、CSR 推進計画の策定、CSR 推進活動のレビューや CSR 情報の発信などを行います。



2017 年度 CSR 活動のまとめ

2017 年度は、CSR 推進の体制作りの一環として、次の活動に取り組みました。

- ・ 推進活動に不可欠である「人権方針」及び「CSR 調達方針」の策定を行いました。
- ・ CSR の周知・浸透を図るため、全役職員を対象とした CSR の基本、基礎知識や考え方などについての講習や e-learning による教育の実施をはじめ、社内イントラネット上への CSR の基礎知識に関する資料の公開や同内容のプレゼン Movie の公開を行いました。
- ・ CSR 活動のグループ展開を踏まえ、グループ企業の CSR 現状の把握、課題抽出のため、主なグループ企業の CSR の現状調査を進めました。

2017 年度の CSR 活動

ISO26000 中核主題	目標	結果
組織統治/社会的責任の認識と組織全体への統合	グループ企業における CSR の現状把握	主なグループ企業に対し、アンケートによる CSR 現状調査を実施。 (概要は「グループ企業 CSR 現状調査結果の概要」参照)
	CSR 活動のグループ展開計画の策定	グループ企業調査結果を踏まえ 2018 年度活動目標を策定。
	CSR の周知・浸透	役員向けに講習、管理職/CSR 推進委員向けに e-learning などによる CSR 教育の実施。 また、社内イントラネットへ CSR の基本知識、ジャムコの CSR 活動についての資料及びプレゼン Movie を公開し、社内周知・浸透を図った。
人権	人権方針の策定	人権方針を策定。 (CSR/CSR の考え方/CSR の推進/「人権方針」参照)
	人権に関する教育の実施	コンプライアンス教育*にて、「ビジネスと人権」タイトルで教育を実施。 *国内全役職員対象 (e-learning/紙面などによる)
	グループ企業における事業と人権との関わり現状把握	グループ企業 CSR 現状調査において、主なグループ企業の人権への取り組み状況を把握。(概要は「グループ企業 CSR 現状調査結果の概要」参照)
労働慣行	ワークライフバランスのさらなる推進	育児休業後の職場復帰や待機児童問題などに対応した働きやすい環境づくりの一環として、本社及び航空機内装品事業部のある立飛ホールディングスが開設した企業主導型保育所と契約し、労働環境整備を推進した。
	グループ企業における労働慣行の現状把握	グループ企業 CSR 現状調査において、主なグループ企業の労働慣行への取り組み状況を把握。 (概要は「グループ企業 CSR 現状調査結果の概要」参照)
環境	事業活動における温室効果ガス(GHG)の把握と削減	2016 年度の 4,983t-CO2 に比べ、2017 年度は 4,914t-CO2 と、1.38% 減少。
公正な事業慣行	コンプライアンス規範の浸透	コンプライアンス教育*にて、「ビジネスと人権」タイトルで教育を実施。 *国内全役職員対象 (e-learning/紙面等による) また、調達関係者に対しては「下請法」の周知を行った。
	調達方針の策定	CSR 調達方針を策定。 (CSR/CSR 活動/お取引先とともに/「CSR 調達方針」参照)

ISO26000 中核主題	目標	結果
消費者課題	より安全な製品／サービスの提供	製品の安全及び航空機の飛行安全を実現するため、安全及び品質情報の相互確認及びリスクの早期把握を目的として、国内外子会社を含むグループ企業全体の品質に係る情報共有を推進した。また、ヒューマンファクター教育の展開を図ることで、人的要因によるエラー発生の防止や意識向上に努めた。さらに、生産プロセス及びカスタマーサポートの充実に努めることで、より安全で高品質な製品とサービスの提供を目指した。
コミュニティへの参画/およびコミュニティの発展	当社の各拠点及びグループ企業における社会貢献活動の現状把握	各事業所、グループ企業などでは、各教育機関、自治体、地域団体などへ向けた、会社見学・工場見学の実施や、次世代を担う学生などへの講演や講義などの教育支援、地域 NGO や慈善団体への寄付、募金、献金、また、従業員による献血や、植樹活動など広範囲に実施。

グループ企業 CSR 現状調査結果の概要

グループ企業の CSR の現状を把握するために、主要な連結子会社 6 社に対して CSR に関するアンケートを実施しました。アンケートの一次回答に対して、必要に応じて追加質問を行い、より具体的な内容の把握に努めました。

アンケートは、ISO26000 における 8 項目の中核主題を切り口として実施しました。主題ごとに回答者が異なるケースもあって主題間で評価にバラツキも認められましたが、対象とした 6 社の全般的な傾向としては、コンプライアンスをはじめとした企業に求められる基本的な事項については、相応の対応がなされている状況でした。一方、各社ともこれまで、CSR について体系的な活動は行っていないため、CSR そのものに対する理解が十分でないことが判明しました。

また、国内の連結子会社 3 社については、2016 年度の CSR 活動開始当時に実施した当社自身における現状把握の結果と、概ね同様の傾向が見られる結果となりました。

一方、海外の連結子会社 3 社については、ISO に沿った幅広い CSR 活動には至らないものの、ある会社では人権、CSR 調達、ステークホルダーとの対話など、過去に国際企業で追及された事項に対する取り組みに加え、慈善活動や寄付活動なども積極的に行っており、また、他の会社では植樹活動といった環境への特別な配慮は見られるものの、その他の主題については概ねその国の法の順守に留まっているといった状況なども見られ、各国の事情が反映された結果となりました。

これらのことから、グループ各社においては、既に取り組みの進んでいる事項については、それらをグループで共有するとともに、グループ全体の課題に対する当面の取り組みとして、「CSR の周知・浸透」及び「CSR 調達」に重点を置いて推進していくものいたします。

2018 年度の CSR 活動目標

2018 年度の CSR 活動の主な活動目標は、CSR 推進体制のさらなる充実として、グループ企業を含めた「CSR の周知・浸透」、「CSR 推進体制の充実」、「サプライチェーンの CSR 調達の把握」とし、各主題の活動目標を次のとおり定めました。

ISO26000 中核主題	2018 年度 CSR 活動目標
組織統治/社会的責任の認識と組織全体への統合	グループ企業を含めた CSR 周知・浸透 CSR 体制の充実 サプライチェーンにおける CSR 現状把握
人権	人権方針の周知を含めた、人権に関する教育の実施（国内グループ企業含む）
労働慣行	ワークライフバランスのさらなる推進
環境	エネルギー使用量の 2017 年度比 1%以上の削減
公正な事業慣行	コンプライアンス規範の浸透
消費者課題	より安全な製品/サービスの提供
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	当社の各拠点及びグループ企業における地域社会貢献活動の推進

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

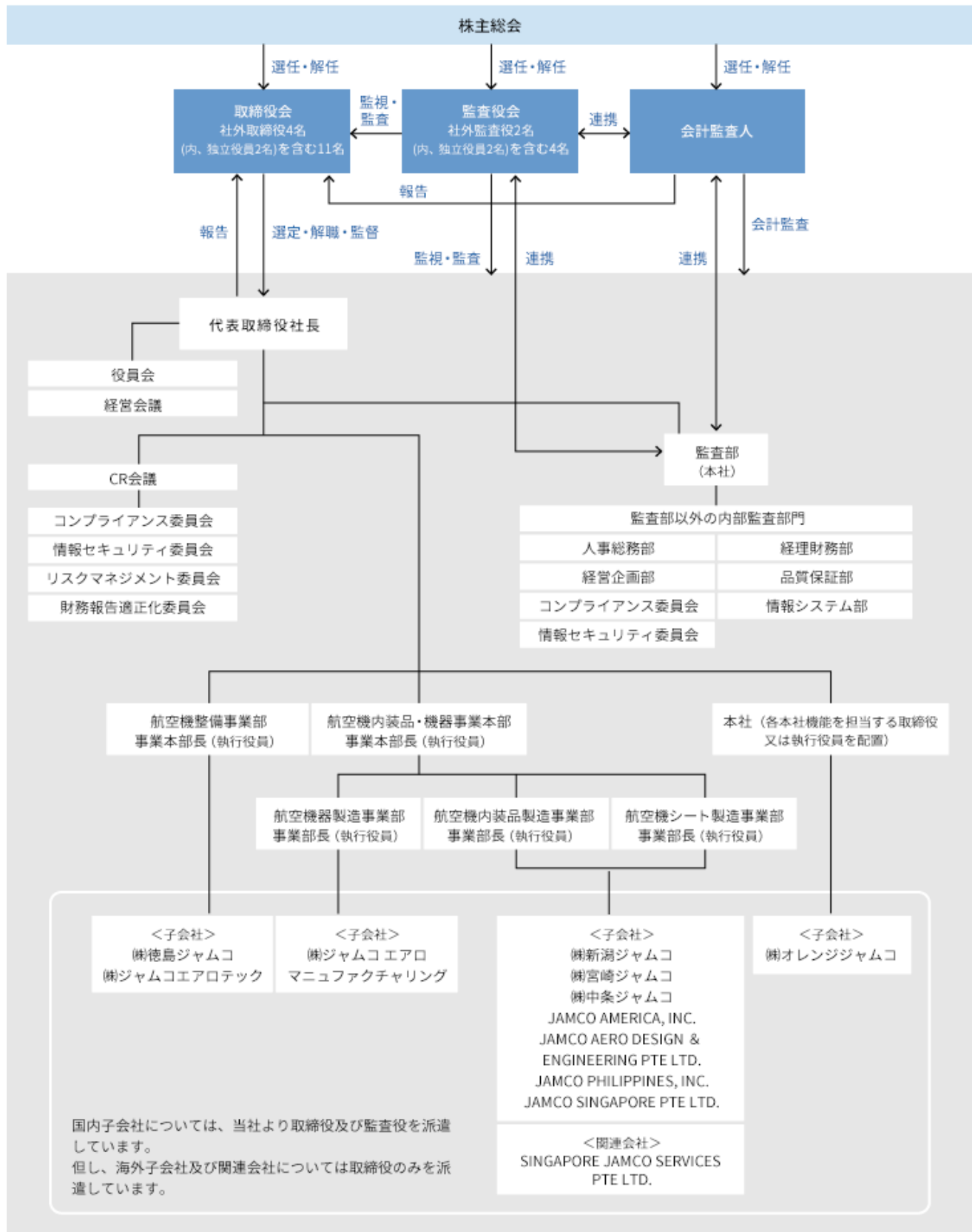
当社では、「技術のジャムコは、士魂の気概をもって」を基軸とする経営理念のもと、顧客への製品とサービスの提供を通じて、社会に貢献し、企業として永続することが経営上の最も重要な方針と位置づけています。その実践に向け株主、経営者及び従業員が効率的な連合体として機能し、ステークホルダーに利益を還元しつつ企業価値の向上を図るとともに、経営の透明性確保及び説明責任の強化に取り組むことがコーポレート・ガバナンスの基本であると認識しています。

当社の取締役は 15 名以内とする旨を定款で定めています。又、株主総会における取締役の選解任の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めています。又、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨も定款で定めています。

取締役の選任に当たっては、現業を把握している者がより適切な意思決定と業務執行の監督ができ得るものと考えていますが、経営や航空業界に精通している社外取締役をバランスよく選任することも肝要と考えています。

コンプライアンスについては、法令、国際ルール、社内規程類等を遵守するとともに、高い倫理観を醸成する企業風土を日々の企業活動の中で育むことが重要であると認識しています。当社では、「コンプライアンス規範」を掲げ、役職員に対してコンプライアンスの重要性に対する共通認識の徹底に努めており、又、これをグループ各社に展開し、企業集団としてコンプライアンス経営の実践を通じて社会的責任の遂行を図っています。

当社のコーポレート・ガバナンス体制



コーポレート・ガバナンスの詳細については 下記に掲載のコーポレート・ガバナンス報告書 をご覧ください
<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/governance/governance.html>

企業活動における CSR

コンプライアンス

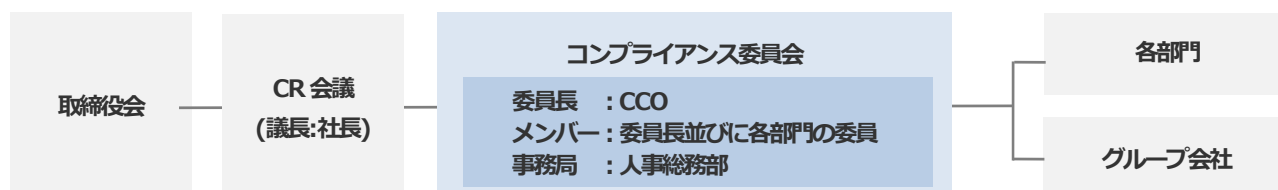
ジャムコグループでは、コンプライアンス経営を推進すると共に、健全な経営管理機能の構築と業務の遂行を通じて、ステークホルダーからの期待と信頼に応えられるように努めています。また、役職員一人ひとりが法令の順守はもとより倫理的側面も含めた社会的要請に確実に順応し、社会的良識をもって行動できるよう、「コンプライアンス規範」を定めています。

コンプライアンスの推進

全社のコンプライアンス統括責任者として、チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）を選任し、また、コンプライアンス統括機関として、コンプライアンス委員会を設置しています。委員会は定期又は臨時に開催し、取り組み状況をコンプライアンス・リスク（CR）会議及び取締役会に報告しています。

また、社員一人ひとりがコンプライアンスの十分な知識と理解を深めるために、コンプライアンス研修を定期的実施し、意識浸透を図っています。

2016 年度には、全役職員に対してコンプライアンス研修を実施したほか、新入社員及び主任・係長・管理職への昇進者に対してもそれぞれの特性に応じた内容のコンプライアンス研修を実施しました。



※CR 会議：（Compliance Risk）内部統制を統括する組織
コンプライアンス推進体制

コンプライアンスホットライン

ジャムコグループでは、コンプライアンス上の問題を自浄作用で早期に是正することを目的として、コンプライアンスホットライン（通報・相談窓口）を設置、運用しています。相談窓口は社内・社外に設置しており、寄せられた通報・相談内容について、社内関係部署及び外部コンサルタント、弁護士などと連携し、可能な限り誠実かつ迅速な対応に努めています。また通報者が不利益を被ることがないように、通報者の保護を規則に定めています。

健全な商取引の推進

ジャムコグループは、コンプライアンス規範において、健全な商取引を推進する姿勢を明確にしています。

また、全役職員に配布している「コンプライアンスハンドブック」には、適用法令の順守、公務員への不正利益供与の禁止、取引先との過度な贈答接待の禁止など具体的な方針を示すとともに、定期的なコンプライアンス研修を通じて誠実で公明な取引を心がけ、政治、行政とは良識ある健全な関係を保つよう徹底をはかっています。



コンプライアンスハンドブック

コンプライアンス規範

ジャムコグループは、企業としての社会的責任を果たし、社会からの信頼に応えていく企業であることを目指します。

ジャムコグループの役職員は、次の原則に基づき、関連する法律、国際ルール、社内規程類等を遵守すると共に高い倫理観と社会的良識をもって行動します。

1. 安全と品質に十分配慮した製品及びサービスを開発、提供し、お客さまとのよりよい信頼関係の構築に努めます。
2. 環境問題への配慮については、別途定めた基本理念、企業行動指針の精神を遵守し、自主的、積極的に取り組みます。
3. 個人の人格・個性を尊重すると共に、差別・ハラスメント等の行為のない、安全で働きやすい環境の確保に努めます。
4. 業務上知り得た内部情報に基づくインサイダー取引（不公正な株取引等）を行いません。
5. 誠実で公明な取引を心がけ、政治、行政とは良識ある健全な関係を保ちます。
6. 反社会的勢力には毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断します。
7. グローバル企業の一員として、諸外国の慣習、文化を尊重し、国際社会との協調に努めます。

情報セキュリティへの取り組み

ジャムコグループは、情報セキュリティ管理の実践及び継続的な改善が、企業の社会的責務を果たしていくうえでの必須要件と考えており、国際標準規格 ISO/IEC27001:2013（情報セキュリティ管理に関する要求事項）を準拠とした ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）に基づいた運用、監視、見直し、維持及び継続的な改善に取り組んでいます。また、個人情報の取扱いについても「個人情報保護方針」に基づいた管理を徹底しています。

情報セキュリティ基本方針

ジャムコグループは、情報セキュリティの確保が企業の社会的責務を果たしていく上での必須要件であることを踏まえ、以下のとおり、情報セキュリティ管理に関する国際標準規格 ISO27001 に準拠した情報セキュリティマネジメントシステムを確立し、それに基づいた運用、監視及び継続的な改善に取り組めます。

1. 統括責任者を任命し、グループ内横断的組織を設置することにより、情報セキュリティ管理体制を確立します。
2. 事業上及び法規制の要求事項並びに契約に基づくセキュリティ義務を確実に履行します。また情報資産の基本的な取扱いや具体的な手順を社内規程に定め、情報の重要性に応じた合理的管理を実施します。
3. リスクを評価する基準及び方法を確立します。それに基づき明確になったリスクを回避・低減するため、また、回避・低減が難しい重大な障害または災害によって事業活動が著しく影響を受けないよう適切な対応措置を策定し実行します。
4. 役職員が情報セキュリティの重要性や要件を十分認識し行動できるよう、定期的な教育や適時の啓発を行って、質が高く調和のとれたセキュリティ管理を実現します。
5. 情報セキュリティ体制の有効性を継続的に確保するために、監視・評価体制を確立し、不具合事象や事故の再発防止・予防に努めるとともに、適宜仕組みの見直し・改善を図ります。

個人情報保護方針

ジャムコグループは、個人情報(特定個人情報を含む。)を適正に取り扱い、個人情報の保護を徹底することが社会的責務であるとの認識のもと以下の「個人情報保護方針」を策定し、グループとして個人情報保護の取組みを実施致します。

1. 個人のプライバシーを重んじ、個人情報に関する法令、その他の規範及び社内規程を遵守の上、当社グループが保有する個人情報の保護に努めます。
2. 個人情報の利用目的を当社グループの事業内とし、その目的達成のために必要な範囲内において、公正且つ適正な方法で個人情報の取得、利用及び提供を行います。
3. 当社グループが保有する個人情報は、その利用目的の達成に必要な範囲内で、正確且つ最新の内容に保つよう適切に管理いたします。
4. 保有する個人情報について、本人から開示・訂正・利用停止等の求めや、苦情・問い合わせがあった場合には、適切に対応いたします。
5. 当社グループが保有する個人情報の取り扱いに当たっては、不正なアクセス、漏洩、誤用、滅失、毀損の防止及びその他の安全管理の措置を講じ、問題が発生した場合は、適切且つ速やかに対応いたします。
6. 当社グループの個人情報保護に関する取組みに関して、定期的な監査を実施し、また、その他社会情勢等環境の変化に伴い継続的改善に努めます。

災害発生時の事業継続計画(BCP)

大規模な自然災害や事故の発生時においても、経営資源への影響を最小限に抑え、事業が継続できる体制を構築することは、社会的責任を負う企業の責務でもあります。

ジャムコでは、事業継続計画（BCP）を策定し、災害対応体制の構築並びに安全点検・各種訓練の実施など、さまざまな取組みを行っています。

事業継続の基本方針

ジャムコは、大規模災害等が発生した場合において、お客さまと従業員・家族の安全を第一に、製品・サービスをできるだけ速やかに提供するために、以下を基本方針として事業継続計画（BCP）の策定と事業継続マネジメント（BCM）の構築に取り組みます。

1. お客さま、従業員とその家族の人命と安全の確保を優先します。
2. 航空機の製造及び安全運航に資する製品・サービスを優先的に供給・提供するための体制を整えます。
3. 地域と協調した災害対応を実施します。
4. 企業活動の早期復旧を目指します。

リスクマネジメント

社内組織体制、会社情報の適時開示手続きに加え、危機発生時には然るべき社内体制下で係る情報を管理することが重要であると認識しています。危機管理に関する社内規程において、当社に係る潜在リスクを特定し、それらが万一顕在化した場合における危機の種類と程度に応じ、通報体制をはじめとする情報管理や緊急対策本部の設置などの社内対応を規定しています。又、関係情報の社外への開示については、発生した危機による経営への影響を分析したうえで、社長又は広報・IR担当の執行役員による報道対応を規定する一方、投資者に対する発生事実の適時開示については、会社情報の適時開示手続きにて処理します。

なお、子会社において発生した危機についても、当社において発生した危機に準じた取り扱いをするよう規定しています。

特集：“ CONTRAILプロジェクト ” 地球温暖化防止活動環境大臣賞「国際貢献部門」受賞！



当社が参画する産学官共同研究の民間航空機による大気観測プロジェクト「CONTRAIL」が、2017年度環境省の地球温暖化防止活動環境大臣表彰において、「国際貢献部門」を受賞しました。

これは、環境省が1998年度より地球温暖化対策を推進するための一環として、毎年、地球温暖化防止月間である12月に、功績のあった個人や団体に対し、その功績をたたえるために行っているものです。

当社は、2003年より大気観測プロジェクト「CONTRAIL（注）」に加わり、自動大気サンプリング装置（ASE）と二酸化炭素濃度連続測定装置（CME）という2つの装置を開発し、航空機に搭載するために必要な国土交通省航空局やFAA（米国連邦航空局）のSTC（追加型式証明）の認証を取得してきました。STCの取得により、これらの観測装置は日本航空株式会社が定期旅客便で運航するボーイング777-200ERや777-300ERに取り付けられ、地球規模で大気の大気観測データを採取しています。また、その解析結果は地球温暖化に関する研究のための貴重なデータとして国立研究開発法人国立環境研究所から世界中に配信され、活用されています。

当社はこれからも、地球環境の保全活動の一環として当プロジェクトに参画してまいります。

注：CONTRAILとはComprehensive Observation Network For TRace gases by AIRlinerの略で、この名称は2007年より使用しています。



CONTRAIL プロジェクトとは

地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムを解明するため、産学官が連携する大気観測プロジェクト CONTRAIL。ジャムコは 2003 年よりプロジェクトに参画し、地球温暖化研究に貢献しています。

大気中の温室効果ガスを立体的に観測

地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの広範囲な観測を目的とした「CONTRAIL プロジェクト」。大気中のどこにどのような濃度で、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが分布しているかを精密に観測するためには、地上からだけではなく、航空機を利用して三次元的に観測することがとても重要です。プロジェクト開始以前は、シベリア上空など一部の地域においてチャーター航空機を用いた観測が実施されていましたが、毎日世界の空を飛んでいる民間航空機で観測できれば、より頻繁に、精密なデータを収集することができます。また、地球規模で世界各地の観測ができること、地表から上空まで高さの違いなど、空間的に詳細な温室効果ガスの分布を調べることができることなど、画期的なメリットがあります。

航空業界のプロフェッショナルとしてプロジェクトの継続を支える

地球温暖化研究のための大気観測は、1993 年より、気象研究所、日本航空、日航財団(現在の JAL 財団)がオーストラリアー成田間の航路で、ボーイング 747-200 型機にタイマーで大気を収集するフラスコサンプリング装置を搭載して、観測を実施してきました。しかし、搭載機の退役に伴い、2002 年頃、新しい大気観測装置を搭載することが検討されていました。

そして 2003 年には、国立環境研究所、気象研究所、東北大学、宇宙航空研究開発機構、日本航空インターナショナル(現在の日本航空)、日航財団、ジャムコをメンバーとする産学官連携の新たな共同研究プロジェクトが発足。ジャムコは ASE(自動大気サンプリング装置)、CME(二酸化炭素連続測定装置)の 2 種類の新しい大気観測装置を開発すること、及び装置を航空機に搭載するための承認を取得することを担当しました。これらの新しい装置による観測活動は、2005 年から「CONTRAIL プロジェクト」(プロジェクト名称の使用は 2007 年から)として現在も行われています。

航空業界のプロフェッショナルとして大気観測の継続を支えていくことが、このプロジェクトにおけるジャムコの使命です。観測が始まって以来、装置を搭載していた航空機の退役や航路変更により、新たな航空機に搭載するための改修や、観測装置の機能を向上させる改修などをジャムコが実施しています。観測開始から 10 年以上を経て、今後も継続して観測ができるよう、入手が困難な内部部品に対し代替部品の使用を可能にするための改修をはじめ、新たな観測装置の開発や新たな機体への搭載についての研究など、プロジェクトの継続と発展に向けた努力を続けています。



CME(二酸化炭素連続測定装置)



ASE(自動大気サンプリング装置)



ASE の搭載前整備

観測結果は貴重なデータとして世界で活用

ASEは、あらかじめプログラミングした12地点の大気を自動で収集して地上に持ち帰ることができ、国立環境研究所で、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、六フッ化硫黄、一酸化炭素、水素の濃度を分析しています。これらの観測データは1993年から始めた旧ASE観測を含めると、南北両半球の温室効果ガスの緯度分布について、長期間にわたる継続した観測として世界最長の記録です。また、CMEは航空機の上昇中、巡航中、降下中に二酸化炭素濃度を連続して高精度で測定・記録することができます。

このような温室効果ガスの濃度を、地球規模で高頻度に測定し、データを蓄積するプロジェクトは世界でも初めての試みです。長年の観測による貴重なデータは、現在、国立環境研究所を通じて世界中の研究者に提供されており、そのデータを活用した研究成果は数多くの学術論文や学会発表の形で全世界に発信されています。

今後も、安定的な観測をバックアップすることを通じて、地球温暖化研究に貢献し続けていきます。



関連ニュース (研究成果・受賞暦等)

- ・2017年12月 CONTRAIL プロジェクトが地球温暖化防止活動環境大臣賞「国際貢献部門」受賞
- ・2016年12月 CONTRAIL プロジェクトから明らかになった研究成果を発表
- ・2015年5月 「CONTRAIL」が地球環境大賞において特別賞を受賞
- ・2014年11月 大気観測プロジェクトが、ボーイングのecoDemonstrator787 フライトテストに参加
- ・2013年10月 大気観測プロジェクト CONTRAIL が日韓国際環境賞を受賞
- ・2013年6月 大気観測プロジェクト CONTRAIL が環境賞において優秀賞・環境大臣賞を受賞
- ・2012年7月 航空機による大気観測プロジェクト特別塗装機のフライト開始
- ・2007年6月 新大気観測装置の開発を担当した弊社後藤啓太が航空技術協会会長賞を受賞

関連サイト

- >国立環境研究所 CONTRAIL プロジェクトのウェブサイト (英語)
- >JAL CONTRAIL プロジェクト紹介ページ

お客さまとともに

安全と品質への配慮を第一に、お客さまにご満足いただける製品とサービスの提供を通じて、社会への貢献を実現します。

製品品質への取り組み

当社では、経営方針に「飛行安全の確保と品質の向上を図る」を掲げ、安全で高品質な製品を社会に提供していくことを、経営の最も重要な基盤ととらえています。この考えに基づき、研究開発、設計、生産、整備、修理等、製品のすべてのライフサイクルにおいて、法令、基準、規格等に則り常に適切な品質管理を行い、製品安全を確保することを第一としています。

品質マネジメントシステムの構築

「ジャムコグループは、社会の信頼及び顧客の満足を追求すべく、品質を最優先にして、要求品質を確実に満足する製品及びサービスを顧客に提供する。」をグループの品質方針として定め、これを基盤として各部門の品質方針に展開することにより、お客さまに満足いただける高品質な製品とサービスの提供を積極的に推進しています。

また、当社の事業は航空宇宙産業特有の高度な品質保証が求められており、JIS Q 9100、AS9100やISO9001等、それぞれの事業内容にふさわしい品質保証体制を構築しています。

認定取得 国土交通省航空局認定事業場

組織名	能力	認定番号	備考
航空機整備事業部	航空機の整備及び整備後の検査の能力 航空機の整備又は改造の能力 装備品の修理又は改造の能力	第 004 号	
航空機内装品・機器 事業本部	装備品の製造及び完成後の検査の能力	第 094 号	

EASA(欧州航空安全庁)認定組織

組織名	承認範囲	認定番号	備考
航空機整備事業部	装備品（エンジン、APU 以外）の修理、 改造、オーバーホール及び検査	EASA.145.0560	
航空機内装品・機器 事業本部	航空機内装品に関するマイナー 設計変更およびマイナー修理設計の承認	EASA.21J.170	
	航空機内装品の製造及び検査 航空機乗客用座席の製造及び検査	EASA.21G.004	
	装備品（エンジン、APU 以外）の修理、改造、 オーバーホール及び検査	EASA.145.0087	

CAAS(シンガポール民間航空庁)認定組織

組織名	承認範囲	認定番号	備考
航空機内装品・機器 事業本部	航空機内装品の修理、オーバーホール及び改造	AWI/225	
	航空機内装品の製造	AWI/POA/019	
株式会社新島ジャムコ	ギャレー及びラバトリーの製造	AWI/POA/019	サテライト

品質マネジメントシステム

航空機整備事業部 JIS Q 9100:2016 (キャンパス認証)

認証範囲

- ・航空機の整備及び改造、並びに航空機改造の設計・開発
- ・航空機装備品の修理及び改造
- ・航空機支援機材の設計・開発、製造及び保守

		サイト名	所在地	備考
1	株式会社 ジャムコ 航空機整備 事業部	本部・機体整備工場	宮城県岩沼市下野郷字新拓 70	中央事務所
2		成田地区 (部品整備工場)	千葉県成田市新泉 26	
3		三鷹地区 (営業及び部品整備工場)	東京都三鷹市大沢 6-11-25	

航空機内装品・機器事業本部(機器製造) JIS Q 9100:2016 (キャンパス認証)

認証範囲

- ・航空宇宙用機器、航空宇宙用部品、地上支援機材並びに複合材製品の設計・開発、製造及びサービス提供
(保守点検、修理、など)

		サイト名	所在地	備考
1	株式会社 ジャムコ 航空機内装品・機器事業本部 (機器製造)	調布地区	東京都三鷹市大沢 6-11-25	中央事務所
2		立川地区	東京都立川市高松町 1-100	機器製造の営業
3	株式会社ジャムコエアロマニュファクチャリング		宮城県名取市愛島台 7-101-36	共同事業所

航空機内装品・機器事業本部(航空機内装品) JIS Q 9100:2016 (キャンパス認証)

認証範囲

・航空機内装品の設計・開発、製造及びサービス提供（修理）

	サイト名	所在地	備考
1	株式会社 航空機内装品 ・機器事業本部 (航空機内装品)	航空機内装品・機器事業本部 (内装品製造)	東京都立川市高松町 1-100 中央事務所
2		調布試験場	東京都三鷹市大沢 6-11-25
3		中条倉庫	新潟県胎内市清水 9-125
4	株式会社 新潟ジャムコ	新潟県村上市坪根字上坪根 341-1	共同事務所(ハニカムコア工場含む)
5	株式会社 新潟ジャムコ 第二工場	新潟県村上市佐々木字上野 945-3	共同事業所
6	株式会社 新潟ジャムコ 第三工場	新潟県胎内市清水 9-113	共同事業所
7	株式会社 宮崎ジャムコ	宮崎県宮崎市田野町甲 7320	共同事業所
8	株式会社 宮崎ジャムコ 第二工場	宮崎県宮崎市田野町甲 8136-7	共同事業所

品質保証教育の実施

品質に関する知識と意識の高揚のため、品質保証教育を実施しています。主なカリキュラムとして、通年採用者を含めた新人を対象とした品質マネジメントシステムの「導入」及び「基礎」教育、また生産部門においてはヒューマンファクターズ及び資格教育等を随時実施しています。

お客さま満足の向上

ジャムコでは、お客さまの声を製品品質やサービスの改善につなげるために、日々誠実なコミュニケーションに努めています。

お客さまの貴重なご意見

2018年4月10日～12日にハンブルクで開催された Aircraft Interior EXPO2018 に、ジャムコは今年も出展しました。ジャムコが毎年出展するこの見本市は、世界中から多くの機体メーカー、エアライン、サプライヤーをはじめ航空業界関係者が一堂に集まる航空機内装品や関連製品の世界的見本市です。この機会はジャムコにとって新たな製品コンセプトを紹介する機会であると同時に、乗務員やメンテナンスに関わる方々などをはじめとした、製品を実際に使用いただいているお客さまのご意見やご希望を直に聴けるまたとないチャンスであり、製品開発や、サービス向上に欠かせない重要な機会と考えております。

ジャムコはあらゆる機会をとらえ、お客さまとの積極的なコミュニケーションに努め、お客さまが満足頂ける製品づくり・サービス向上に努めております。



社員とともに

「誠実で、社員を大事にする会社」であり続けるために、ジャムコグループを支える社員の成長を支え、いきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

ジャムコの社員構成

社員数 [2018年3月31日現在]

	グループ連結	ジャムコ単体
正社員	3,087	1,197
臨時社員	291	113
総数	3,378	1,310

人事関連データ（ジャムコ単体） [2018年3月31日現在]

平均年齢 42.5歳

平均勤続年数 17.3年

平均年間給与 6,925千円

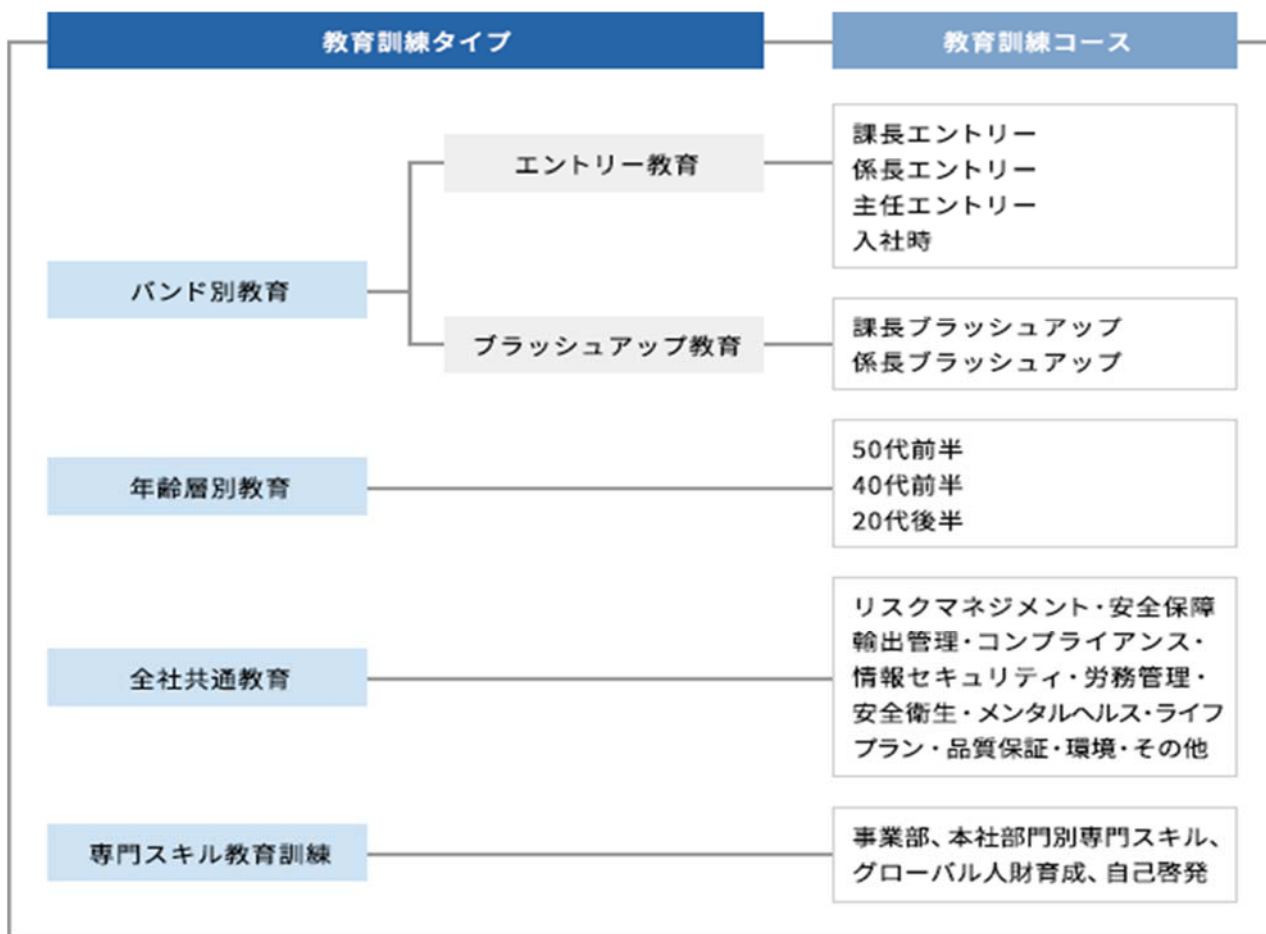
新卒採用者数 46名

人材育成への取り組み

ジャムコでは、社員一人ひとりが仕事への誇りと高い技術力を持って日々業務に取り組み、お客様により高い品質の製品・サービスを提供していくために、人材育成に積極的に取り組んでいます。

人材育成制度として、人事総務部が行う新入社員教育、バンド（職群）別教育、年齢別研修、配属先での品質保証等の各種専門教育など、社員のキャリアや職域に応じた学びの場を提供しています。

また、海外・国内語学研修制度、資格取得報奨金支給制度などの自己啓発支援体制も整え、社員の成長を多面的に支援しています。



人権の尊重

ジャムコグループは、コンプライアンス規程に定めた「個人の人格・個性を尊重すると共に、差別・ハラスメント等の行為のない、安全で働きやすい環境の確保に努めます。」を指針とし、人権を尊重することを基本姿勢としています。定期的な社内研修を実施し、役職員の人権意識の浸透を図っています。

グローバルに事業を展開する企業としての責任を積極的に果たしていくために、今後はグローバルな人権課題も視野に入れ、グループ横断的な人権研修・啓発活動の実施等、グループ一体となった取り組みを推進してまいります。

ダイバーシティの推進

ジャムコグループは、様々な背景を持つ社員が活躍できる職場環境を整え、人材のダイバーシティ（多様性）の推進を図ることで、グループの持続的成長とより良い社会づくりに貢献していきます。

一般事業主行動計画

従業員が仕事と子育てを両立させることができ、従業員全員が働きやすい環境をつくることによって、従業員がその能力を十分に発揮できやすくするようとする。また、次世代育成支援に加え、女性の活躍の推進を行う為に、次の様に行動計画を策定する。

1) 次世代育成支援（計画期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

計画内容

- 目標 1「出産や子育てによる退職者についての再雇用制度の構築」
- 目標 2「在宅勤務制度の構築」
- 目標 3「子育て時の福祉厚生サービスの充実と援助」

2) 女性活躍推進（計画期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日）

計画内容

- 目標「係長の役職に占める女性割合を 10%以上とする」

女性の活躍推進

2017年度のジャムコの女性管理職は8名（管理職全体の3.1%）となっています。管理職の登用を進めていくためには、まずは管理職候補者である女性係長を登用することが必要と考え、一般事業主行動計画にある「女性活躍推進」の目標に定めています。

女性活躍推進計画に基づく女性係長数の推移

	2015年度	2016年度	2017年度
女性係長数（名）	6	8	8
女性係長比率（%）	3.1	4.2	3.9

ジャムコの女性従業員が飛行機一等航空整備士に合格

2017（平成29）年4月、航空機整備事業部機体整備工場メンテナンス統括室固定翼課所属の女性課員が、飛行機（固定翼・タービン発動機）一等航空整備士を受験し、ジャムコの女性従業員としては初の合格となりました。

ジャムコでは、女性整備士の採用も積極的に行っており、女性の活躍推進を図っています。

本人のコメント

今から約2年前、ビーチクラフト式B300型機の実地試験を受験しようと思ったから、一番悩んだのは勉強の方法でした。一体何から手を付けたいのか、どのように進めていけばいいのか、どこまで追求すればいいのかと、手探りの状態で時間だけが過ぎていきました。

このままでは、期限内に受験することは難しいと不安に思うこともあったなかで、最後まで諦めずに続けてこられたのは、周囲の方たちのおかげでした。上司や先輩方が私に勉強するきっかけを作ってくださったり、プライベートの時間を割いて、今までの経験やさまざまな知識を丁寧に伝授してくださったことに、とても感謝しています。また、同時期に同型機の受験を目指す先輩や後輩がいて一緒に勉強できたことも、頑張っているのは自分だけではない、私も頑張ろうと強い励みになりました。

今回、この試験に合格することができたのは、こうしてたくさんの方々にサポートしていただいたからだと強く実感しています。本当にありがとうございました。合格はしたものの、まだまだ足りないところは多々あります。飛行機も日々進歩しているので、これからも勉強し、ひとつひとつ克服して安全で良い機体を作り上げていけるようにしたいと思います。また、私がサポートしていただいたように、これから受験を控えている仲間たちのサポートを、できる限りしていきたいと思っています。



一等航空整備士合格者



他にも女性整備士が機体整備工場にて活躍中

障がい者雇用

ジャムコグループでは、障がいを持つ人の雇用創出と活躍推進に継続的に取り組んでいます。

グループ各社において、障がい者が共に働きやすい職場環境の整備に努めると共に、1999年に設立した特例子会社で、工場内の補助的作業を委託しているオレンジジャムコにおける雇用も積極的に進めています（社員数：33名）。2017年度、障がい者雇用率は2.49%で、法定雇用率の*2.0%を上回っています。（*：2018年4月1日より2.2%に改訂）

今後も障がい者の能力を引き出して働く意欲を高められるよう、努力を続けていきます。



定年退職者再雇用制度

ジャムコでは、60歳の定年退職を迎えた社員のうち、再雇用を希望し、且つ就業規則などの基準を満たす場合に、再雇用嘱託従業員として満65歳まで雇用を継続する制度を設けています。また、会社が必要とし、社員本人が希望する場合には、65歳を超えて契約を更新することがあります。希望に応じて短時間勤務を選択できるなど、知識や経験を生かして柔軟に働ける環境を整えています。

2017年度の再雇用者は17名で再雇用率は65%です。

ワークライフバランスの推進

多様な人材がいきいきとやりがいを持って働き、能力を最大限発揮できる職場環境を整えるために、社員のワークライフバランスを推進する各種制度を整えています。

ジャムコでは、ダイバーシティの推進として、一般事業行動計画を策定し、次世代育成支援と女性活躍推進を掲げて仕事と子育ての両立を推進しておりますが、育児休業後の職場復帰や待機児童問題などに対応した働きやすい環境づくりの一環として、本社、及び航空機内装品事業部の近隣にある、立飛ホールディングスが開設した企業主導型保育所(Fuji 赤とんぼ保育園)と契約し従業員が利用し易い労働環境の整備を行いました。

ジャムコは、これからも働きやすい環境づくりを社員とともに検討し、推進していきます。

主なワークライフバランス支援制度と利用実績(2017年度)

制度	概要	男性(人)	女性(人)
産前産後休暇	産前6週間、産後8週間の計14週取得可能。	-	8
出産時休暇	4日間取得可能。	34	-
育児休業	子供1歳6ヶ月（最長2歳年度まで）に達するまで。	7	12
育児時短制度	子の12歳到達後最初の3月31日まで、1日あたりの所定労働時間を2時間の範囲で短縮して勤務することが可能。	0	10
子の看護休暇	12歳までの子の学校行事などを目的として、子1人につき年間で5日間の取得可能。	102	23
介護休暇	介護を目的として、年間で5日間取得可能。	1	0
介護休業	介護を目的として、最長93日間取得可能。	0	0

※その他、育児フレックス勤務、時間外勤務免除制度、深夜残業免除制度、育児休業者復帰支援プログラム（WiWiW）、介護支援休暇等があります。

※利用実績の対象は正社員、パートタイマー社員、嘱託社員となります。

育児休業を取得して

航空機内装品・機器事業本部 技術本部 部員

育休を取得するまで

2017（平成 29）年 5 月に長男が生まれました。

妻の母が遠方に住んでおり、また介護が必要な祖母の面倒を見ているなどの事情があり、私が 1 ヶ月の育児休業（以下育休）を取得して妻のサポートと子供の世話をすることを決めました。

上司には、出産予定の半年ほど前に育休取得の相談したところ、快く了承を得ることが出来ました。私が一番気になっていた業務の引き継ぎは、計画的に徐々に行って、育休の準備を進めました。

入院中

長男が誕生したその日、喜びのつかめ間の深夜に病院から連絡が入り、息子の呼吸が安定しない為、総合病院に転院することになり、私が入院の立ち会いをすることになりました。新生児には時々見られる症状で、「一過性過呼吸」という、母体の羊水が肺に残って、うまく肺呼吸に切り替えることができない状態との事でした。妻の退院後も、息子は一週間ほど総合病院に入院していたため、私達は面会と初乳を届けるため毎日通院しました。その間、妻は出産直後で体力が十分回復していなかったにもかかわらず、夜中も 3 時間おきに搾乳に起き、また毎日の面会もギリギリまで息子を抱いていて、想像を超える大変さであろうと思いました。このように妻共々不安の中、育休と言う十分な時間のおかげで、可能な限り妻のサポートができたことは、育休を取得する決断をして本当に良かったと思いました。

退院後

息子が退院してからは、家事も育児も其々で分担してきたので、育休の 1 ヶ月で大体の家事と育児は何をしたらよいか分かるようになりました。料理や洗濯は、もともと嫌いではなかったこと、沐浴やミルク、オムツ交換も通院中に妻と一緒に指導を受けることができたので抵抗はありませんでしたが、いざ実践してみると夜立きはするは、おしっこはかけられるは、ミルクは戻すはなど、かなり大変でした。この作業を妻一人に任せるのはかなり負担が大きいと痛感しました。

この期間で息子の世話を妻と共有して行なえ、育休が終わり仕事に復帰した後も、週末はできる限りサポートし、妻には少しですが自由な時間が作ることができてきたので、これからもこの流れを続けていければと、思っています。

取得してみた

苦労した部分は多くありましたが、この経験は良い部分も沢山ありました。出産直後から向き合えたせいか、息子は私にかなりなついてるように思います。正直、今までは特に子供が好きという感覚はなく、むしろどう扱ったらいいのかわからなかったのですが、今では自然に接することができるようになりました。グズっている息子をあやして、笑顔を見せてくれたり、寝かしつけることができた時は本当に嬉しいものです。

最後に

今回の育休取得にあたり、担当していたプロジェクトの山場とも言えるミーティング前の大変忙しい時期に、1 ヶ月もの育休を取れるよう調整いただいた上司、また、私の業務を引き継いでくれた、同僚らには心から感謝しています。

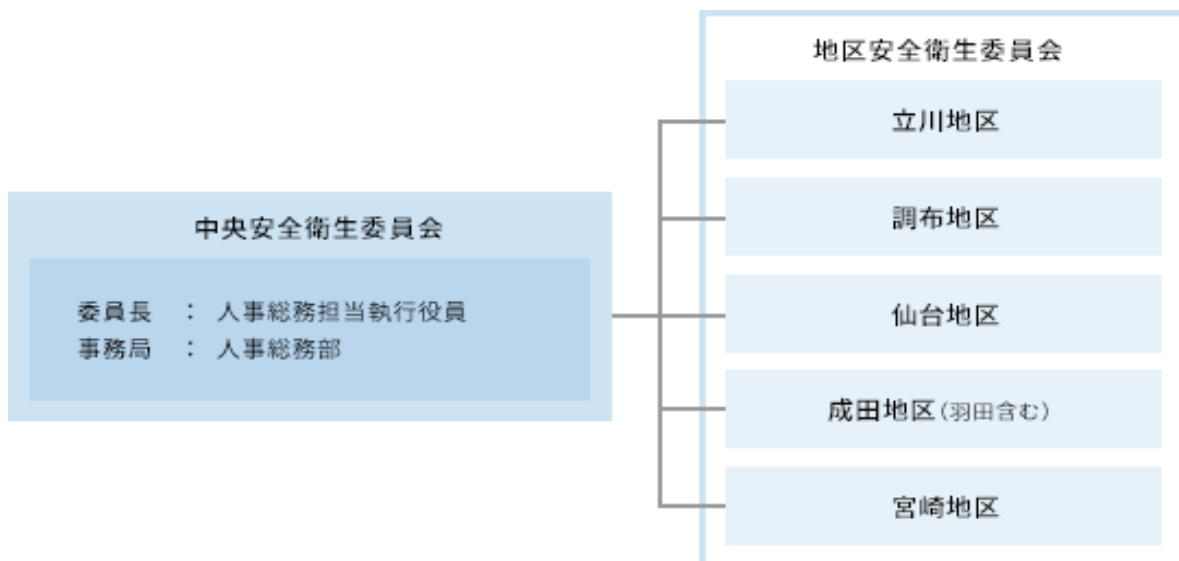


労働安全衛生

安全の確保は、経営の最も重要な基盤であり、社会への責務でもあります。ジャムコでは、労働安全の関係法令等を順守し、役職員・組織が密接に協力連携しながら、安全で働きやすい職場環境を実現していくことを基本方針としています。

ジャムコでは、人事総務担当執行役員を委員長とする中央安全衛生委員会のもと、地区ごとに地区安全衛生委員会を設置し、組織的に活動しています。また、工場勤務の従業員を対象とした安全衛生教育の実施など、社員の安全意識向上にも日々取り組んでいます。

労働安全衛生管理体制



※地区ごとの安全衛生担当者として、従業員規模に応じて統括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者、安全衛生推進者、産業医を配置しています。

※地区ごとに労働安全衛生法に定められた作業主任者を専任しています。

従業員の健康のために

ジャムコでは、社員の健康を守るための施策として、全従業員に対してメンタルヘルス教育を行っているほか、健康診断受診の義務化、電話による健康相談（ジャムコファミリー相談 24）の受付けなどを行っています。

お取引先とともに

ジャムコグループは、良きパートナーとしてお取引先と共に発展できるよう、常に誠実な対応を心がけ、公正で健全な関係構築に努めています。

健全な取引関係の構築

ジャムコは、お取引先の皆さまと公正で健全なビジネス関係を築き、共に発展し、社会に貢献する良きパートナーでありたいと考えています。

法令を順守することはもとより、お取引先と常に誠実な対応を心がけ、公正で透明な関係を保つための指針を「コンプライアンスハンドブック」に明記のうえ、すべての役職員に配布し、日々意識浸透を図っています。

さらに、海外にも拠点を構えるグローバル企業として、国際ルールに従うのはもちろんのこと、それぞれの国の文化や習慣を尊重し、信頼関係の構築に努めています。

お取引先の皆様と一体となったCSR推進に向けて

ジャムコでは従来、各国・地域の法令に則り、社会規範を順守した調達を推進してきました。しかし近年の社会的要請の高まりを受けて、お取引先と共に CSR に取り組み、社会への責任をより積極的に果たしていく必要があると考えています。

今年度は、新たに策定した CSR 調達方針をグループ企業と共有し、お取引先の皆さまと協力しながらサプライチェーン全体での取り組みを進めてまいります。

紛争鉱物への対応

コンゴ民主共和国及びその周辺国において産出されるタンタル、スズ、タングステン、金の 4 種類の鉱物（紛争鉱物）が、当地で残虐行為を行っている武装勢力の資金源となっていることが国際問題となっています。ジャムコでは、当地の紛争を助長することがないよう、紛争鉱物と認められた原材料の不使用を宣言すると共に、お客さまからの紛争鉱物規制に関する調査・報告の要請にも適切に対応しています。

また、これら 4 種類の鉱物に関係する原材料の調達先に対し、紛争鉱物を含有していないことの誓約書の提出を求めています。

グリーン調達の推進

ジャムコは、あらゆる企業活動における環境配慮と、生産・販売する製品のライフサイクルにおける環境への負荷低減に継続して取り組むため、環境への負荷の少ない部材や部品を優先的に調達するための「グリーン調達基準」を定め、実行しています。

CSR 調達方針

ジャムコグループは、CSRに配慮した調達活動を推進します。又、取引先に対しても本調達方針の順守を求めています。

1. 健全な取引関係の構築

- ・取引先との相互理解と信頼関係を大切にし、健全な取引関係を維持します。
- ・すべての取引について、公正目つ適正な取引条件を順守します。
- ・取引先の経営状況、技術力、企業姿勢などを評価し、企業の社会的責任を尊重した取引を進めます。

2. 取引先の公正な選定と適正な調達

- ・品質、価格、納期などの客観的な購買基準と合理的な判断に基づき、取引先を選定します。

3. 不明朗な関係の排除

- ・公正、公平で透明な取引に努め、業務に関連した個人的な報酬、口銭の授受及び社会的常識範囲外の接待や贈与を受けません。

4. 法令順守・倫理

- ・取引を行う各国及び地域の関連する法令を順守します。
 - ・業界基準及び動向を常に注視し、これを尊重した取引に努めます。
 - ・下請代金支払遅延等防止法に定められた親事業者の義務を順守し、独占禁止法に定められた優越的な地位の濫用として禁止されている不公正を行いません。
 - ・取引に関連する機密事項を漏洩しません。
 - ・提供を受けた情報や知的財産を提供者の了解なく社外に公表しません。
 - ・紛争鉱物に対し、サプライチェーンの透明性の確保と責任ある調達を実施します。
- #### 5. グリーン調達
- ・グリーン調達を推進し、環境保全、資源保護などに充分配慮した取引を行います。
- #### 6. 人権の尊重及び労働安全衛生
- ・基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

株主・投資家とともに

適時適切な情報開示と利益還元に努めるとともに、対話を通じて株主・投資家の皆さまの期待に応えていきます。

IR情報の開示

ジャムコでは、経営戦略や財務情報などの企業情報の公開における適時性・公平性・正確性・継続性を重視しています。この考え方に基づき、情報の管理や開示に関わる規程を定めた上で、財務情報および非財務情報について、法令に基づく開示を適正に行うとともに、透明かつ公正な開示がなされるよう取り組んでいます。

また、コーポレートサイトにIRサイトを開設し、投資に関わる情報をタイムリーかつ正確に開示するように努めています。このサイトでは、決算短信・有価証券報告書・財務データ・IR資料（決算説明会資料、決算報告書）などを掲載しています。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

ジャムコでは、当社への正しい理解を深めていただくと同時に、株主の皆さまの権利や平等性を確保するためにも、情報の適時・適切な開示が重要だと考えています。

そのためにも、株主総会の開催や決算報告書などの発行はもとより、証券アナリストや機関投資家の方々に対しては年2回決算説明会を開催し、業績・経営方針などの説明を行っています。そのほか、さまざまな活動を通じ、株主・投資家の皆さまとの対話に積極的に取り組んでいます。

2017年度のIR活動実績

活動内容	実施回数
決算説明会	2回（第2四半期決算、本決算）
スモールミーティング	4回
個別ミーティング	26回
機関投資家向け工場見学会	1回
個人投資家向け会社説明会	2回



決算説明会



個人投資家向け会社説明会

株主還元に対する考え方

ジャムコは、経営基本方針と事業別方針のもと効率的経営を行い、収益の向上を図ることで株主の皆さまには安定かつ継続的に還元を行う所存です。また、事業のリスク発現などによる不測の事態に備え、かつ将来の設備投資などへの資金需要を勘案し、内部留保にも努めることが継続的成長にとって不可欠であり、このバランスを保つことが株主の皆さまへの利益につながるものと考えています。

地域社会とともに

国内外の様々な地域で操業するジャムコグループは、地域社会の皆さまとの関係を大切に、信頼される企業を目指します。

ジャムコの社会貢献活動

ジャムコでは、地域の皆さまとの交流や教育・学術支援、海外企業との連携による共同研究開発など、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

富山大学で講演「大気観測装置と大型機内装品の紹介」

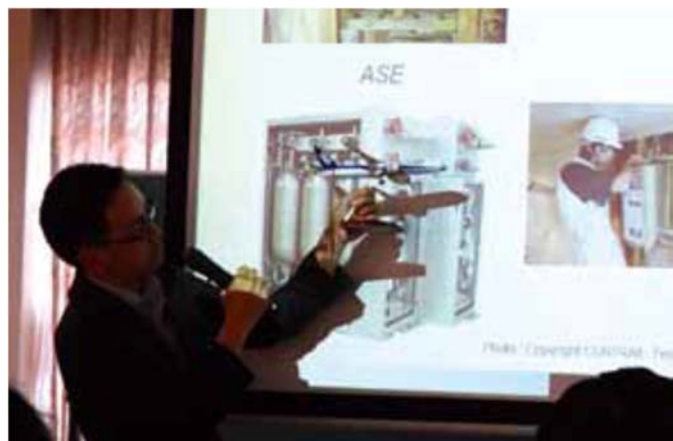
2017年8月4日、文部科学省宇宙科学技術推進委託費「航空人材育成プログラム（実機飛行を通じた航空実践教育の展開）」の一環で講演会が開催され、当社は、一般社団法人日本航空宇宙工業会に紹介を受けた富山大学からの依頼により「大気観測装置と大型機内装品の紹介」と題して講演を行いました。

「航空人材育成プログラム」とは、名古屋大学を主管とした国内13の大学による、「次世代の航空科学技術を担う人材の育成につながることを目的とした活動で、産学官が連携して、実機飛行による実践教育およびそれにつながる啓発教育として展開しているプログラムです。

具体的には、大学生を対象とした「実機飛行教育」や「フライト教育・ミニ実験」、中高生およびその保護者を対象とした「アウトリーチ活動（進路選択への啓発）」の3つの活動を行っており、今回の富山大学での講演は、この「アウトリーチ活動」の一環として実施されたものです。

講演会は富山大学工学部の大会議室を会場に開催され、高校・高専の学生、大学生および先生方など総勢30名程の方々を迎え、ジャムコからは航空機整備事業部 部品整備工場技術グループ員が講師として参加し、ジャムコが関わる大気観測プロジェクトやその観測装置の説明、また、ジャムコの主力商品であるギャレー、ラバトリー、シートなどについて紹介しました。

地球環境に関わるプロジェクトと言う事や、日頃見慣れない製品の裏側の説明など、大変興味深く聞いていただくことができました。



早稲田大学「最新航空産業概論」講座で講義を行いました

2018年1月11日、早稲田大学にてジャムコ航空機内装品・機器事業本部 技術本部次長が「最新航空産業概論」の講座において講義を行いました。

本講座は、早稲田大学と全日本空輸(株)が航空分野に興味を持つ学生に対して実践的教育を推進するために設定した連携講座で、運航乗務員・客室乗務員をはじめとした実務担当者や航空産業関連企業トップ・官庁の方々が毎回講師として招かれています。

今回の講義は「キャビン・インテリアに求められるもの」(副題：航空機客室内装品の現状と将来について)と題し、まずは当社の事業概要、キャビン・インテリア製品と開発の流れ、当社のサプライヤーとしてのシェア及び今後の市場規模など、当社業務と航空産業の発展性への理解を深めていただきました。その後、キャビン・インテリアの進化の様子に移り、当社が差別化を図るために開発した個室タイプのシートの写真を交えて製品の紹介をすとともに、次世代キャビン・インテリアの提案に向けた軽量化素材の採用の拡大や機内の縦空間を生かすデザイン、より快適で使い易いキャビン・インテリアのイノベーションへの取り組みなどを説明しました。

今回、100名を超える学生が出席し「航空機客室内装品」という切り口から、当社の業務に興味をもっていただきました。

これからもジャムコはこのような機会をとらえ、次世代を担う学生が航空機業界への関心を高めてもらう機会を提供していきたいと思えます。



地球環境のために

ジャムコは、「自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。」を経営理念に挙げて地球環境問題に積極的に取り組んでおります。

環境への取り組み

ジャムコでは、省エネルギー対策、グリーン調達、廃棄物の削減と再資源化、及び使用する材料等の化学物質成分の調査を行い、有害物質を含むものについては、代替品への転換を推進しています。航空機器製造事業部(三鷹)及び本社(立川4号棟)においては、認証機関による環境マネジメントシステム認証を取得し継続的改善を図っています。

これからも、地球環境問題への取り組みの重要性が高まるなかさらなる環境負荷の低減に努めていきます。

活動の歩み

当社では、1998年7月に“地球環境に関する宣言”として環境基本理念、環境企業行動指針を定めて組織的な環境保全活動の取り組みをスタートし、1999年9月に「環境規程」を制定いたしました。

当時の調布本社地区(調布サイト)が全社のさきがけとなって活動を展開し、2000年2月にISO14001の認証を取得いたしました。

2001年4月には「環境規程」の全面改訂を行い、環境保全活動の全社展開を開始しました。

2010年7月には「環境業務標準(EOS: Environmental Operation Standard)」を新たに制定し、ISO14001の認証を持つサイトにならい、そのほかのサイトではISO14001に準じた環境保全活動に取り組んでおります。

環境基本理念/環境行動指針

環境基本理念

人類存続のための地球環境保全は全世界の共通の願いである。

ジャムコグループは、グローバルに活動する企業として、地球環境問題を経営の最重要事項のひとつに位置付け、基本理念を“豊かさで共生できる、地球環境にやさしい企業”として企業活動を行い、地球を守り、広く社会に貢献する。

環境企業行動指針

(1) 自然環境保全

製品開発、生産、サービスの活動に当たっては地域及び地球の環境保全に努める。

(2) 資源の有効利用

環境負荷の少ない製品の開発及び生産・サービスにおいては資源の効率的な利用、再利用並びに環境負荷の少ない物品の利用に努める。

(3) 環境関連法規の順守

国や地方自治体の環境法令・規則を順守する。

(4) 環境保全体制

基本理念及びこの指針に沿って全社及び各サイトで環境方針を策定し、環境保全体制を確立して、定期的に見直し、維持、向上を図る。

(5) 環境保全活動の啓蒙、推進

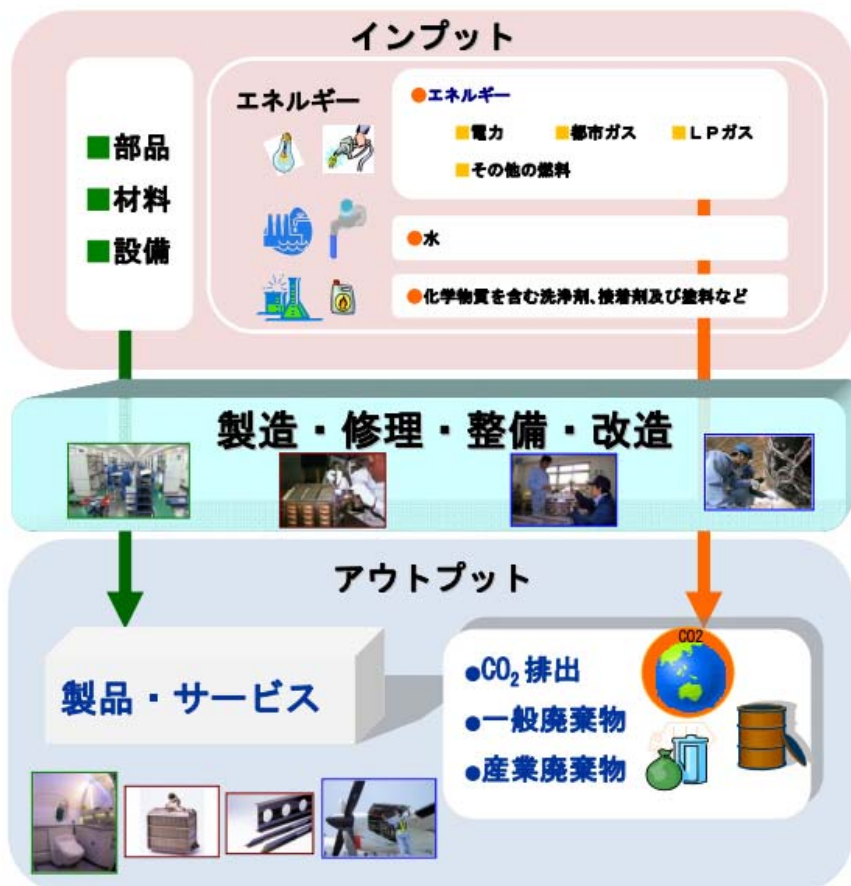
基本理念及びこの指針をすべての役職員及び関係者に周知し、全員が理解し行動できるように教育・啓蒙活動を推進する。

(6) 環境保全活動の公開

基本理念及びこの指針を社内外に公開する。

ジャムコの事業活動と環境との関わり

当社では、航空機分野に特化し、航空機内装品及び機器の製造・修理、航空機並びに航空機装備品の整備、改造等の事業を行っています。下図は、当社の事業活動と環境との関わりを表したものです。当社では、事業を行うに当たり、多くの資源を消費し、様々なものを排出しています。このインプット・アウトプット両面における環境負荷を低減するために、その定量的な把握に努めています。

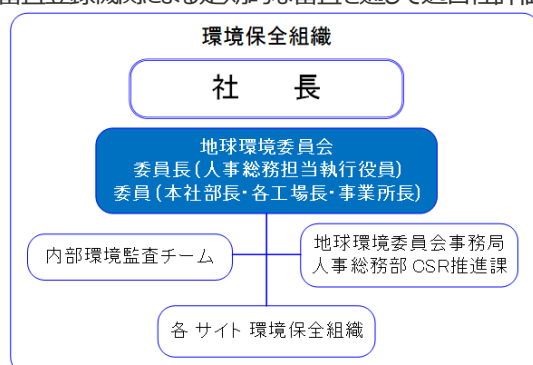


環境保全活動の推進体制

全社の推進体制

当社の環境保全活動は、その推進体制と環境マネジメントシステムを整えて取り組んでおります。社長は統括責任者として環境保全活動を統括し、また、人事総務担当執行役員は地球環境委員会の委員長として活動を推進し、マネジメントレビューを行っております。地域ごとに環境保全活動を一体となって行うサイトを設け、各サイトでは、サイト環境委員会などを通じて組織的に活動を推進しています。各サイトは、「環境基本理念」、「環境企業行動指針」に基づき、単年度の到達目標として「環境目標」を各々設定し、その達成に向けた計画的な活動の推進と内部環境監査によるチェックなどを通じて、継続的な改善に努めています。

なお、ISO 認証取得サイトにおいては、ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムが適切に運用され、且つ、継続的な改善が行われているか、審査登録機関による定期的な審査を通じて適合性評価を受けています。



・ISO 認証取得サイト:航空機器製造事業部 (三鷹駐在の航空機内装品・機器事業本部 技術本部 機器製造技術部及び品質管理部 機器グループを含む)、本社 (立川4号棟:秘書室、監査部、人事総務部、経理財務部、品質保証部、情報システム部)

・立川サイト:航空機内装品・機器事業本部 (本社 経営企画部及び三鷹駐在の技術本部 技術管理部 構造解析グループ、内装品技術第一部 設計第三グループを含む)・中条サイト:航空機内装品・機器事業本部 航空機内装品製造事業部 購買補給部 補給中条グループ

・成田サイト:航空機整備事業部 部品整備工場(三鷹駐在の航空機整備事業部 業務推進室、営業部及び部品整備工場を含む)

・羽田サイト:航空機整備事業部 部品整備工場機装グループ(羽田駐在)

・仙台サイト:航空機整備事業部 機体整備工場(技術開発室及び品質管理室を含む)

・宮崎サイト:航空機整備事業部 機体整備工場 宮崎事業所

* 中部サイト・帯広サイトはそれぞれ、2017年9月、2017年12月にそれぞれ閉鎖しました。

地球環境委員会

地球環境委員会では、各サイトの活動状況、環境目的・目標の達成状況、内部環境監査の実施状況、是正処置・予防処置などの状況についてマネジメントレビューを行うとともに、法規制及び顧客要求事項の変更などについて報告・討議を行っています。

地球環境委員会事務局では、全社的な環境保全活動が効果的且つ効率的に運用、改善が図れるよう情報の収集や、従業員への教育にも力を入れています。

環境監査体制

内部監査・外部審査は、環境保全活動が定められた要求事項に適合し適切に実施されているか、また、その活動が有効に維持されているかなどについて定期若しくは臨時に確認することによって、是正、改善を図っています。

内部環境監査チームは、社内規程で定める資格要件を満たす内部監査員により構成しています。内部環境監査は、監査計画、監査チェックシートに基づいて実施しており、管理手順と運用状況との整合性を確認するなどの実地監査に主眼を置いています。監査結果は監査ごとに報告書にまとめ、不適合事項に対しては是正処置を求めるなど、改善につなげています。なお、内部監査結果は年度ごとにまとめを行い、マネジメントレビューに反映しています。

主な取り組み

ジャムコでは、事業活動内での様々な取り組みを通じて、環境保全活動へ取り組んでいます。

環境保全活動の推進

年度を通じた環境活動は、経営層によるマネジメントレビューによって総括され、課題については改善に向けて検討が加えられます。その検討を経て決定された重点実施事項に対して各サイトでは、環境目的／目標・実施計画・施策の策定(Plan)、施策の実践(Do)、環境目的／目標の達成状況の確認と活動結果報告(Check)、そしてマネジメントレビュー(Action)へと、PDCA サイクルを回すことで継続的に活動しています。こうした継続的な取り組みによって、環境に関する様々な動きや変化に対応すると共に、役職員の環境意識を高めています。

環境影響評価及び法規制順守の管理

事業活動において環境に影響を及ぼす環境側面を抽出し、特に改善を必要とするものや環境関連法令等で特別な管理を必要とするものに関しては、著しい環境側面としてその影響を評価しています。なお、法規制順守の重要事項である「緊急事態への対応」や「排水」については、自主基準の設定及び定期的な確認を行うなど、管理策を強化しています。

化学物質の管理

事業活動にて使用する化学物質は、性状や危険性及び有害性などに応じて法令等で規制されており、特に有害性の高い物質については、社内規程に管理手順を定め、物質の漏洩や飛散のないよう適切に管理しています。また、実際に化学物質を取り扱う作業者は、必要な資格を保有し、管理手順に基づき適切に作業を行っています。

エネルギー管理

エネルギー合理化のための管理標準(空調機設備、照明設備等)を社内規程に定め、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

廃棄物の削減と再資源化率の向上

廃棄物については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の考えを基本に、その削減に取り組んでいます。

(1) 分別管理の徹底

材質別の分別回収を徹底し、金属類及び紙類(コピー用紙、段ボール、新聞紙、等)を有価物等に切り替え、廃棄物の削減及び再資源化(リサイクル)に取り組んでいます。

(2) 再資源化率の向上

再資源化率の向上については、廃棄物処理委託先との調査、協議により、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなどの再資源化品目の増加に取り組んでいます。

(3) 廃棄物の適正管理

当社では、廃棄物の処理を委託している業者に対して定期的に現地調査や情報収集を行い、処理工程の把握、マニフェスト等の記録管理及び許可更新などが適正に実施されているかを確認しています。

(4) PCB 機器の保管状況

当社では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を、「PCB 特別措置法」に基づき適切に管理していましたが、2016年12月に調布サイトの蛍光灯安定機57個の廃棄処分を完了しました。

現在までに廃棄物処理法に基づき廃棄処分が完了したPCB(ポリ塩化ビフェニル)は次のとおりです。

- ・2013年7月立川サイトで保管していたPCB絶縁油を含んだ三相変圧器(トランス)1台
- ・2014年4月仙台サイトで保管していたPCB含有蛍光灯安定器479個
- ・2016年3月調布サイトで保管していたPCB絶縁油を含んだ油入開閉器2台
- ・2016年12月調布サイトで保管していたPCB含有蛍光灯安定器57個

以上のとおり、当社で保管していたPCB廃棄物については、すべて安全に処分されました。

2017(平成29)年度の活動実績

省エネルギーの取り組み

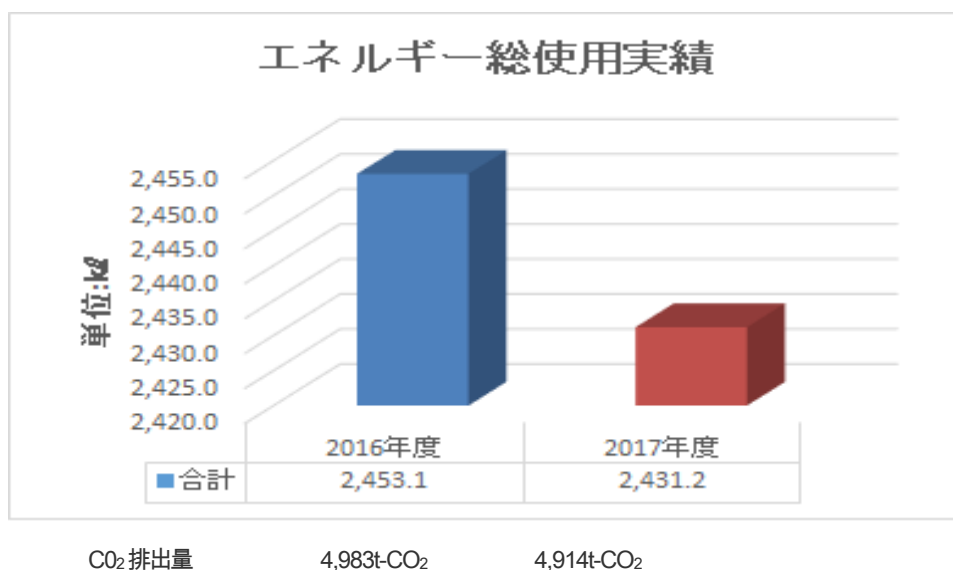
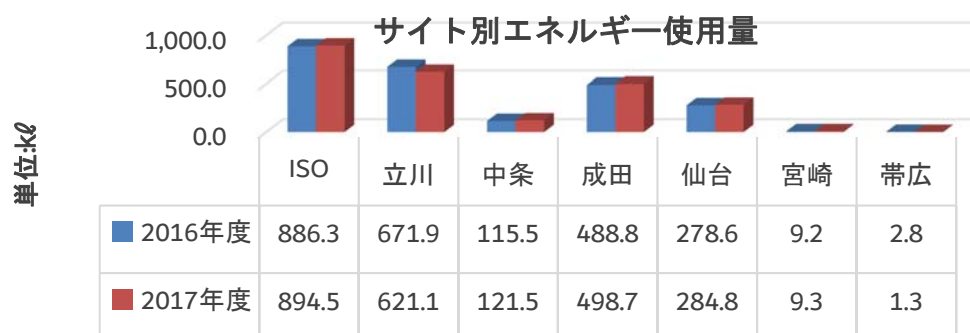
<2017 年度全社共通>

目的:エネルギー使用量を削減する。

「電力、都市ガス、LPガス、A重油、揮発油、軽油、灯油」

目標:2016 年度対比 1%以上の削減

当社では、生産設備及び空気調和設備(エアコン)・照明機器・空気圧縮機のインバーター化などによる省エネルギー化、生産プロセスの効率化、燃料使用量の効率化などを進めており、エネルギー使用量の削減に努めています。



各サイトでは、空気調和設備(エアコン)の効率的な運転及び高効率の設備の導入、照明機器の間引き、LED照明への変更などを行い、エネルギー使用量の削減に努めました。

その結果、2017年度のエネルギー使用量は、2016年度比で0.89%の削減となり、1%以上削減という目標は達成できませんでした。主な要因としては、ISO認証取得サイトで廃棄物排出量削減のため水溶性廃液処理装置を導入した結果、24時間稼働を行なったことに伴い、エネルギー使用量が増加したことです。(各サイトでの削減施策の実施状況は次表参照)

二酸化炭素(CO₂)排出量については、2016年度の4,983t-CO₂に比べ、2017年度は4,914t-CO₂と、1.38%減少しました。

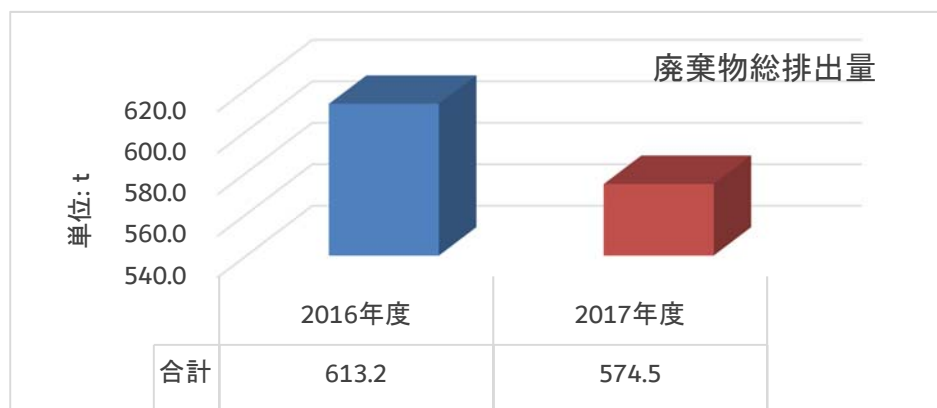
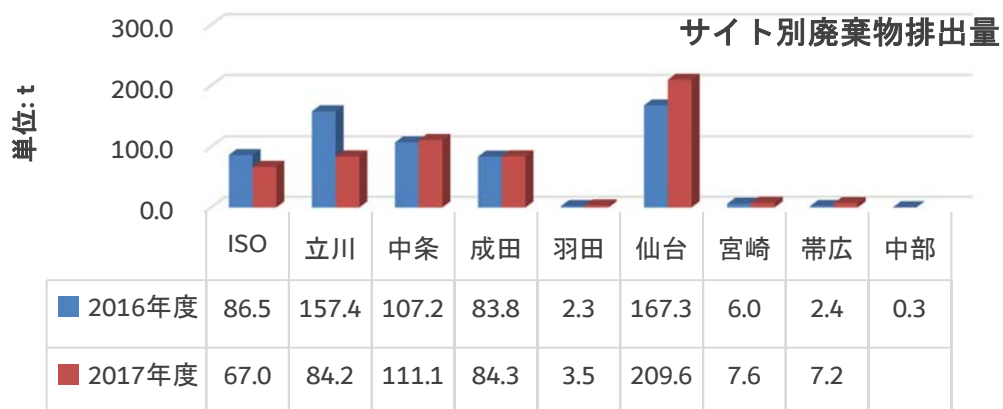
エネルギー削減対策の実施状況

対策(運用含む)項目		ISO 認証取 得 サイト	立川 サイト	仙台 サイト	成田 サイト	羽田 サイト	宮崎 サイト	帯広 サイト	中条 サイト
変圧器	統廃合	○							
	高効率型の設備の導入	○							
空気 圧縮機	エバポレータ設置などにより 夜間運転の停止		○		○				
	吐出圧力の低減	○							
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式)	○			○				
空気調和設 備	設定温度遵守 (夏28℃、冬20℃)	○	○	○	○	○	○	○	○
	定期的なフィルター清掃	○	○	○	○	○	○	○	○
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式、 ヒートポンプ式)	○	○	○	○		○		
照明設備	こまめな消灯(休憩時等)	○	○	○	○	○	○	○	○
	照明器具清掃	○	○	○	○	○	○	○	○
	蛍光灯の間引き	○	○		○			○	
	高効率型の照明設備の導入	○	○	○	○		○		○
生産設備	加熱炒戸への断熱塗料塗布	○							
昇降設備	エレベーターの運転台数変更		○						
その他	未使用時のOA機器OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	デマンド計設置	○	○		○				
	低燃費自動車導入	○	○	○					
	自動販売機台数削減	○					○		
	業務工数低減	○	○	○	○	○	○	○	○

○：実施した項目

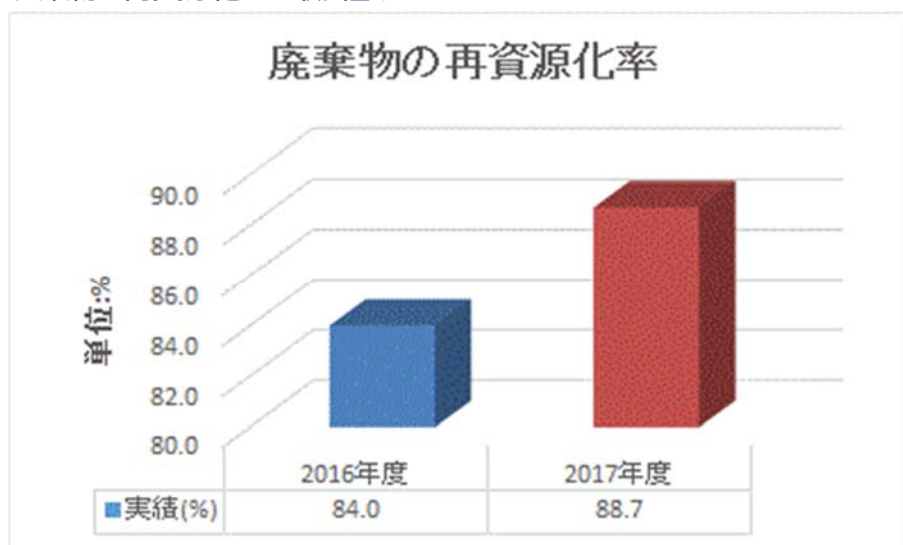
廃棄物削減の取り組み

当社では、事業活動に伴って発生する廃棄物を産業廃棄物と有価物などに分別し、廃棄物の排出抑制と、再利用、再資源化等に努めています。



各サイトでは、廃棄物の分別を徹底し、排出していた廃棄物の一部を有価物に切り替えるなどして廃棄物の削減に努めました。ISO 認証取得サイトにおいては、水溶性廃液処理装置を導入した結果、年間にドラム缶で約 50 本分削減し、2017 年度の廃棄物排出量は 2016 年度比で 6.31%の削減となりました。

廃棄物の再資源化への取り組み



各サイトでは廃棄物の分別を徹底して行い、再資源化に取り組んできました。

その結果、2017年度の再資源化率は88.7%となり、2016年度の84.0%に対し4.7%上回ることができました。

水溶性廃液処理装置の導入

ISO認証取得サイト(航空機器製造事業部)では、使用済みの蛍光浸透探傷検査用廃液の排出量を削減するため、2017(平成29)年6月に「水溶性廃液処理装置」を導入いたしました。

導入前の廃液は、毎月平均でドラム缶(200ℓ)約20本排出していましたが、この「水溶性廃液処理装置」を導入したことにより、約4本(△80%)の排出となり、排出量及び処理費用の削減に大きな効果がありました。



水溶性排水処理装置



廃液 処理前：蛍光緑色



廃液 処理後：透明